

東海大学放送研究部 OB 会設立趣意書



今年、東海大学放送研究部は、創部 50 年を迎えました。我が東海大学は創立 64 年。いまや本学の歴史の中でも、その存在に格調と重みを備えた素晴らしい伝統を誇るクラブに成長したといえます。大学が教授・学生・卒業生で構成され成長するように、クラブもまた顧問・現役部員・OB で支えられ成長していくものだと考えます。

顧みれば 1956 年春、一冊の『アナウンス読本』から始まった我が『放研』が、特定の型にはまった技を磨くでもなく、大学の政策に庇護されるでもなく、ここまで活動を継続してこられた要因は、各世代の現役部員諸氏が、その時代・その瞬間に青春の限らない情熱を、ひたすら目的に向かって傾注した結果の集大成であるといえます。

幾時代もの間、敢えて意識しないまま、誰にも強制されないで、お互いが同じ目的を持って切磋琢磨する。これは素晴らしい営みです。そして同じ目的を持って活動する同志は知り得た情報を大切に温め、その情報を共有しながら価値観を高め、個性を磨いて成長していきます。日々が壮絶な人生の葛藤の場でもあります。その中で人を信じることの大切さを悟り、人を愛することの喜びを知り、素晴らしい仲間が存在に触れて感動します。

お互いを認め合ったとき、同志としての先輩・後輩の人間関係の〔絆〕がしっかりと繋がります。『放研』の 50 年の歴史は、まさにこの素晴らしい営みの繰り返しと継続でした。この活動の中で、生涯の友を得た人も、永久の伴侶に巡り合えた人もいるでしょう。

この素晴らしい『放研』での人との出会いを、この〔絆〕をもっと強いものにしてゆきたいと願う気持ちは、同じ目的を共有しあった者同士の自然な感情ではないでしょうか。

放研で培った自信を糧に、けっして保守的にならず、いつでも挑戦者で、理想を高く、いつの時代にも若々しく生きていく自分を確かめるためにも、同じ DNA で結ばれたこの東海大学放送研究部の OB 同志が、世代を超えて交流し意見交換していくことは大切なことです。その過程でまた同じ趣味を分かち合う仲間巡り合い、そこからまた新しい活動の息吹が始まる予感もします。そんな OB 会を、新しいタイプの異業種交流会のような『東海大学放送研究部 OB 会』を設立していくことは、意義のあることだと思います。

そして創部 50 周年を機に、『東海大学放送研究部 OB 会』は、会員相互がますますの友情交流と人格向上をめざすと共に、これからの放送研究部の活動を暖かく見守り、育み、支援してゆくことを目的とする会にしていきたいと思えます。

平成 18 年 1 1 月吉日

昭和 38・39 年度委員長

木村正義